

平成24. 10. 28までの経緯

年	月 日	市教委の事後対応等
11	3月11日	東日本大震災 14時46分発生, 15時37分大川小に津波到達
	3月15日	唯一生き残ったA教諭が校長にメールで大川小の状況を報告（校長はメールを削除）
	3月16日	校長が市教委に「校庭避難, 引き渡し中に津波」「油断」と状況報告（この日の記録は24年6月に指摘されるまで公開されず）
	3月17日	校長が初めて現地へ（報道陣と一緒に）
	3月25日	A教諭と校長が市教委へ報告。この時の詳しい記録は残っていない。録音せず。メモ等は廃棄。
	3月29日	遺族への説明のないまま, 生存児童の登校式を実施。「お友達少なくなったね」と呼びかける。遺族は報道で知る。
	4月9日	第1回説明会 <ul style="list-style-type: none"> 唯一生き残ったA教諭も出席。経緯を遺族に説明するが, 矛盾点が多すぎてその後問題となる。 山は倒木があり避難できず, 三角地帯へ避難中に津波で被災と説明。 校長が津波時の避難場所は「高台」となっていて, 高台がどこかは決めていなかったと説明。 ※ 報道を一切入れず開催。議事録なし。（1年後, 遺族撮影のVTRをもとに作成）
	5月初旬 ～中旬	生存児童らに聞き取り調査 ※ 児童の他は3人だけ（A教諭, 当日不在だった用務員, 市職員）にしか聞いていない。A教諭の証言は3月25日のもの。 ※ 簡単な記録しか残されてなく, メモもすべて廃棄。後で問題となる。
	6月4日	第2回説明会 <ul style="list-style-type: none"> 亀山市長も出席する。 避難開始は津波12分前の15時25分頃としている。 「倒木があった」ではなく「倒木があったように見えた」に訂正。 マニュアルでは避難場所は「高台」ではなく「近隣の空き地・公園」となっていたが, 大川小の近くに児童全員が集合できる「空き地・公園」はない。 市長は「自然災害の宿命」「学校の建物は市だが, 教育の中身は教育委員会」等と発言する。 説明会の冒頭に「今日の説明会は1時間程度」という言葉があり, 質疑の途中で「時間なので」と一方的に打ち切った。 今後の説明会はないとし, 説明会後の取材には「遺族は納得した」と答えた。 ※ 報道を一切入れず, 説明会を開催。議事録も作らず。 https://www.youtube.com/watch?v=juRO_CM-_QY&feature=youtu.be
	6月25日	境直彦教育長就任記者会見 <ul style="list-style-type: none"> 再調査と遺族との対話継続を明言。 遺族の全家庭を訪問することも明言。
	8月21日	報道により5月の聞き取りの際の調査メモを廃棄したことが明らかに。その報道を受けて, 市教委は再調査実施を決定。 メモを捨てた理由 http://diamond.jp/articles/-/23351
10月	迎えに行った保護者などに聞き取り調査 A教諭は連絡がとれない状況にあると説明（ドクターストップ）。 ※ この間, 再三説明会の開催を要望したが, 実施せず。 ※ 教育長の遺族訪問は途中で中断。	

12	1月22日	<p>第3回説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A教諭が6月3日に学校にFAXしたという手紙が公開される。担当者が保管し表に出さなかったとのこと。校長宛、保護者宛2通があり、どちらも公開。 ・6月の説明会の内容に11月までに関係者から聞き取った内容を加えた時系列の表を提示して説明。避難開始は津波7分前の15時30分頃と変更。 ・マニュアルの不備だけでなく、年度当初活用するとしていた防災用児童カードを全く活用せず、また引き渡し訓練を一度も行っていない等、事前の杜撰な防災体制が明らかになり、人災の面もあったことを教育長が認める。 ・校長先生は「子どもたちが全員見つかるまでやめない」と発言。 ・今後も話し合いを継続することを確認。
	3月11日	<p>県知事献花 「あそこ（椎茸栽培の山）だったら十分逃げられたよね、悔しいですね。」「救えた命でした本当に残念です。」と語る。 ニュースより（動画） https://www.youtube.com/watch?v=2AXhvPQ-qSE</p>
	3月18日	<p>第4回説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波から逃げた時間は1分もなかったことを教育委員会が認める。 ・子ども、バス運転手らが「山に逃げよう」と進言したことを市教委は確認できないとして否定。 ・遺族は、第1回目のA教諭の証言の矛盾点を具体的に質問。明確に答えず。 ・遺族と話し合いを続け、専門家の意見も必要に応じて参考にすることを約束。 ・できるだけ早く次の説明会をもつこと。
	4～5月	<p>市教委の大川小担当者は二人とも転出。新たに教育委員会に入った二人が後任、できるだけ早く持つといった説明会は実施されず。</p>
	6月上旬	<p>突然、市教委が、話し合いではなく「第三者に検証を委託するという事業に2000万円の予算を計上」と報道で明らかに。遺族への事前の相談一切なし。第三者は市教委の契約するコンサル会社が選び、遺族も市教委も検証には入らないとのこと。</p>
	6月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・震災5日後3月16日に校長が市教委に報告したときの報告書が明らかに。「引き渡し中に津波」「油断」等の記載があり、市教委では、ほとんど逃げていないことを、この時点で把握していたことが分かった。遺族は質問状を提出。 ・市教委は回答書と記者会見で、この報告は、校長が避難所等で側聞した内容なので真実ではないと説明。 ・6月16日遺族有志記者会見。 http://diamond.jp/articles/-/20521
	7月8日	<p>第5回説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月16日の報告書の内容は、避難所等で校長が側聞したことなので正確ではないと回答。側聞した際の様子は「すべて記憶にない」。 ・子どもたちは山へ逃げたがっていて、「山に逃げよう」と先生に意見を言っていたことが明らかに。昨年5月の聞き取り調査で子どもたちが証言したが、市教委の報告書からはカットされていた。3月18日の説明会では「市教委としてはおさえていません」と答えていたが、実は分かっていたことが明らかになった。その他にも子どもの証言がカットされている。市教委は明確に答えず。 ・校庭からの移動開始は県道に川の水が道路にあふれてきてからである。津波に飲まれるまで数十秒の移動と思われる。民家裏の狭いルートをわざわざ通り、しかも津波が来ているのに川に向かって移動した。列も乱れていてとぎれとぎれの状態。途中から子どもが先頭になっている。完全に行き当たりばったりで、避難とは言えない。「津波が来たから逃げた」だけである。そのことは遅くとも今年の5月には市教委も分かっていたはず。市教委は明確に答えず。 ・A教諭が今年の6月3日にFAXで届けた手紙を、なぜ1月まで出さなかったのか疑問視されていたが、今回の説明会で多くの矛盾点が明らかになった。FAXは学校に来たということだが、受け取った人がいないこと。それを校長が市教委にFAXしたと言ったり、直接持参したと言ったり、支離滅裂な説明。1月まで市教委の中で忘れられていたというのも不自然である。市教委は明確に答えず。 ・震災4日後の3月15日に、A教諭が校長先生にメールで状況を報告したということだが、そのメールの内容が曖昧。メールはすぐ削除したとのこと。

7月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・次の話し合いに向けての話し合い。 ・7月8日の説明会で出された疑問点に対し、解決にあたること。曖昧な説明はしないことを確認。
8月19日	<p>平野文科大臣が大川小に献花，視察 ・校庭，搜索現場などを視察 http://diamond.jp/articles/-/23918</p>
8月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・市教委が震災後1年5ヶ月以上経って初めて現地での調査を実施。逃げた距離（先頭の子で150m程度）などを計測。
8月26日	<p>第6回説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査の報告と，第三者による検証委員会について市教委が説明。 ・市長が1年2ヶ月ぶりに出席。議会での「宿命」陳謝から一転。「謝罪するのはおかしい」と発言。しかし，最終的に「憤りを覚えたのであればおわび」 ・A先生からのFAXは学校に届いた後，校長は市教委に持参したとのこと。7月の説明会でFAXしたと言ったのは「記憶違い」とのこと。 ・市教委は相変わらず，もう1年半になろうというのに遺族の質問に対し「今後検討していきます」という答え。「時間が経っているので覚えていない」的な回答も目立つようになった。 ・「山へ逃げようという児童がいた」という子どもの証言の存在は認めなかった。 <p>平成23年5月の聞き取り調査で証言した児童について具体的な指摘を受けると，指導主事同士が口に指をあて「シーっ，言うなよ」というサインを送ったり，校長が話す際，横で発言内容を小声で指示するなど，目に余る対応。何かを隠そうとしているのは明かである。翌日，口に指をあてた場面について取材を受けると「私は考えをするとき口に指をあてる癖がある」と答えた。（後日，議会では「個人名を出さないように，という意味だった」と釈明。ただし，説明会では個人名は頻繁に出てくる。）</p> <p>http://diamond.jp/articles/-/25008 動画 https://www.youtube.com/watch?v=yPLaH8nrAWg</p>
9月2日	<p>大川復興協議会の協力で震災当時の様子を知る地域の人の証言を，遺族と市教委と一緒に聞く機会を設け，逃げた距離，時間など情報を共有。当時はすでに側溝から水が噴き出していたことなどが分かった。</p>
9月5日	<p>文科省が「津波により児童生徒等が犠牲となった事例の検証」として「東日本大震災の教訓を今後の防災教育・防災管理に生かすため，学校管理下で津波により児童生徒や教職員が犠牲となった事例に関し，関係自治体を実施する児童生徒等の避難行動等の検証に関する取組について，国として技術的・専門的観点から支援する」という方針を発表。</p>
10月28日	<p>第7回説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺族有志が考察を発表。検証のポイントとして ①なぜ意思決定が遅れたか（救うための十分な条件がありながら，逃げた時間と距離はほんのわずか） ②なぜ津波が来る方向に向かったか（狭い場所を通過して，川に向かっている）という2点を示す。 ・話し合いの中で，柏葉校長は面会できないはずのA教諭に23年の11月に会っていたことが判明。市教委は慌てて「知らなかった」と弁明。 <p>※この後「検証委員会がスタートした」ことを理由に，話し合い，説明は極端に減少。説明会は25年10月まで開催しなかった。</p>